



ヒナバッタ *Glyptobothrus maritimus*

北海道、本州、四国、九州に分布する普通に見られるバッタ。本来は褐色で地味な色彩であるが色素異常の変異からピンク色の個体が生まれる。

幼虫時代のピンク色は非常に目立つために天敵に狙われやすく、成虫まで生き残れるのは稀である。

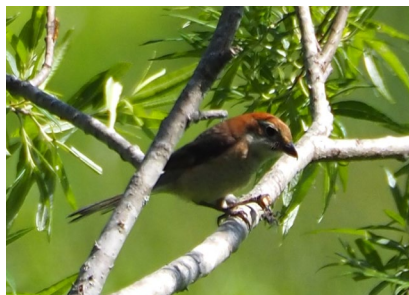
地方の新聞紙では子供が発見すると「幸運のバッタ」として記事になることが多いが、大人が見つけても取り上げられることは少ない。



塘路フィールドノート【7/15～8/14】

【野鳥】

本州以南では猛暑やゲリラ豪雨のニュースが多いこの夏ですが、ここ釧路湿原では 30℃を超える日はそれほどなく、野鳥たちの賑わいは例年通りのよう。



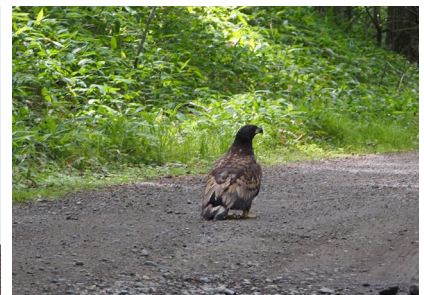
モズ (塘路湖畔)

多くの鳥の声を真似ることから名の由来は百鳥や百舌とも。北海道では夏鳥。モズ科



キセキレイ (塘路湖畔)

センター屋根へお邪魔。セキレイの逸話は古事記や日本書紀にも登場。セキレイ科



オジロワシ (塘路原野)

林道にたたずむ若い個体。しばらくすると飛び立ちトビやカラスとバトル。タカ科



ビンズイ (茅沼)

繁殖地のカラフト方面から北海道にやってくる夏鳥。地鳴きは「ツイー」。セキレイ科



ノビタキ (二本松)

幼鳥同士が行動を共にしている姿がよく見られる。まだら模様は秋まで。ヒタキ科



カワウ (塘路湖)

湖岸で羽干し。70年代の絶滅危機からV字回復。道外では漁業や林業被害も。ウ科

【植物・菌類】

塘路湖周辺では植物たちも順調に実を付けています。本州の酷暑がやがて北海道でも日常になるのか、今後どのように植物に影響していくのか気になります。



ハシドイ（丁香花）

ハシドイ属は大陸に約 30 種。国内に自生するのは本種のみ。釧路市の木。モクセイ科



サルナシ（猿梨）

酸味と甘みのバランスに優れ、猿が我を忘れて食べたというのが語源。マタタビ科



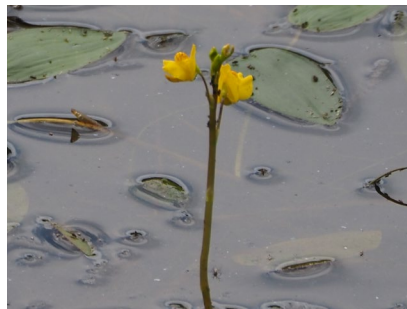
エゾノミズタデ（蝦夷水蓼）

高密度で一斉に開花するエリアが塘路湖には複数ある。陸生も存在する。タデ科



サジオモダカ（匙沢潟）

イモ状の塊茎は五苓散など漢方薬の処方に利用されてきた歴史がある。オモダカ科



タヌキモ（狸藻）

食虫植物であり、捕虫囊で水中の小さな生き物を消化して栄養源にする。タヌキモ科



ドクベニタケ（毒紅茸）

針葉樹広葉樹問わず出現。赤と白が特徴。非常に辛味が強いとされる。ベニタケ科

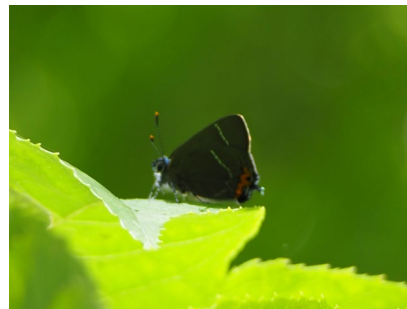
【昆虫・哺乳類】

セミの声が絶えず、キリギリスの鳴き声は昼夜問わず、チョウ類の飛翔も多く見られ、コガネムシ科の甲虫類も盛んに活動中。気温が高くなると哺乳類はバテ気味。



フタスジチョウ（塘路湖畔）

本州では中部以北の高山帯に局所的に分布し（準）絶滅危惧種。タテハチョウ科



カラスシジミ（塘路湖畔）

北海道では平地でも見られるが、中部地方以西では山地性。シジミチョウ科

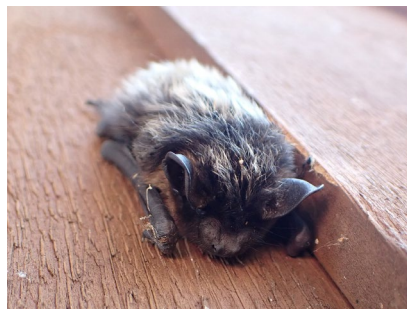


ハナムグリ（塘路湖畔）

花に潜り込んで蜜や花粉を食べる昼行性の甲虫。益虫とされる。コガネムシ科



ビロウドヒラタシデムシ（塘路原野）
動物の死体や糞に集まる。長野県では準絶滅危惧種に指定。シデムシ科



キタクビワコウモリ（センター入口）
気温 30℃ の日に建物軒下にて爆睡中。ヒメホリカワコウモリとも。ヒナコウモリ科



キタキツネ（塘路湖畔）

満腹なのか陽気の湖畔で睡魔に勝てず。こちらの存在も無視して昼寝。イヌ科

◎「夏休み！塘路湖畔の昆虫を探そう」を開催しました

7月25日、釧路市立博物館との共催行事で塘路湖畔に暮らす昆虫の観察会を実施しました。冒頭、国立公園の保護地域の話をしたあと、芝生の周辺に暮らす昆虫を観察しました。ジャノメチョウ、イブキヒメギス、ムシヒキアブなどを観察しました。ドラム缶橋では魚とり網でガサガサをし、ヒメミズカマキリやコオイムシの幼虫を観察しリリースしました。クロクサアリの巣で居候する昆虫を学んだあとは、レクチャールームに戻って、クワガタムシの標本作成を経験しました。捕ってきた虫の軟化方法を学び、展脚はアゴ、触角、脚の向きなどを左右対称になるように行い、マチ針で止めていきます。乾燥には、ひと月ほどかかることや、ラベルをつける意味や必要性について勉強し、標本作成を締めくくりました。



標本作成風景&クジャクチョウ

参加者 9名

9月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

野生生物の「擬態」を見て歩こう

〔日 時〕 9月26日（土）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

アイヌの人々が利用した植物

〔日 時〕 9月6日（日）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター周辺

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター（0154-65-2323）まで

◆日出・日入時間 7/15(3:53,19:01). 7/31(4:08,18:47). 8/14(4:23,18:28)

～指導員の独り言～

■某日の登山後、帰路の林道を走っているとカラマツ人工林のササやぶから耳付きの丸い頭が現れた。かなりの至近距離。若いヒグマ个体のようだ。車内から覗くと20m弱離れた倒木に移動して上に陣取りこちらを観察している。数十秒の睨み合い。ヒグマの方が先に動いた。ゆっくりとササやぶの中に消えていった。クラクションを鳴らさず相手を興奮させず双方が通常へ戻ることができた。安全な車内での数分だったが疲れが出た。ヒグマによる被害はなし。それよりもアブに両腕計5カ所咬まれていたのが悔しい～。(M)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL：015-487-3003 FAX：015-487-3004

E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間：10：00～17：00

（11～3月：16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料

※【訂正とお詫び】『やちまなこ』7月号に掲載した「コヒルガオ」は、正しくは「ヒロハヒルガオ」でした。訂正してお詫び申し上げます。